

平成27年第三回定例会「決算特別委員会」で質問!

(質疑一部)



決算特別委員会で訴える佐々木区議

小中一貫教育

Q 導入への決意は

A (教育長) 子どもたちにひとつプラスとなるよう、教育委員会のリーダーシップのもと、学校・教員と一緒にスピード感をもつて取り組んでいく。



Q 基本方針の内容は

A 教育目標やカリキュラム等を共通に持つ一貫教育の実現に向け、基本方針を策定中である。中一ギャップ解消や教員の意識改革等に資する取り組みをしていきたい。

読書科

Q 読書環境の充実を

A 本好きの子どもを増やすため、多額の予算を投じながら環境を整えており、小・中学校の7割が学校図書標準を達成している。数年後には全校が達成する見込みである。

図書館運営

Q 大活字本蔵書の拡充について

A 制度の周知については、障害者福祉課と協力し、実施した。大活字本蔵書の拡充は、毎年実施している。26年度では、1万冊の蔵書まで拡充した。引き続き拡充していく。



地域包括ケアシステム

Q 構築について

A 各医療団体、介護事業者を始めとして検討に入ったところである。医療連携、介護連携など様々な可能性がある。具体的には医師会等と検討していく。

認知症

Q 認知症早期発見について

A 相談などの事業の活用は図られており、今後も周知の必要性はある。ひとり暮らしなど全ての人を把握するためのネットワークづくりにも取り組んでいきたい。

口腔保険センター

Q 取り組みについて

A 25年に方針を策定し、区では、障害者施設製作品活用の庁内周知や事業所との調整を行ってきた。今年度は、策定した方針に伴い、8月に展示PR会を実施した。製品について他部署から問い合わせがあり、今後も引き続き実施していきたい。

障害者グループホーム

Q 親なき後の備えについて長期的な考えは

A 住み慣れた町で生きていくことは重要であり、グループホームの整備を進めていく。また、障害者支援ハウス等でのグループホームへの体験入所を実施している。

待機児解消

Q 対策について

A 待機児解消策として認可保育園の新設や認証保育所の認可保育園への移行、小規模保育事業の整備等で0歳から2歳児で200名を超える定員増を図っている。



オリンピック

Q スポーツクラブ・ミング・スケートボード練習場の整備を

A 今後の競技人口や実際の要望に応じて検討していく。

新川さくら館

Q 観光資源としての和船活用と名物品の開発を

A 28年春のさくらシンポジウムを絶好の機会と捉え、和船活用や名物品開発を進めていきた。また、そこから生まれる賑わいをより広くPRし、更なる活性化に繋げていきたい。

Q お休み処の拡充を

A ハード面での整備には課題があるが、施設前の広場を有効活用しながら、利用者の期待に応えるようにしたい。